

## 錫杖ヶ岳道迷い(2024年6月)

ピンクテープを登山道と勘違いし急登を登るが、途中で道迷いと気づく。急登を下りずに登山道に復帰しようと危険な斜面をよじ登り、登山道に復帰することができた。



## 解説

登山道を巻き路、ピンクテープを登山道と勘違いし、かなりの斜度の急登の途中で気づいて、どうするか思案。急登を下りずに登山道に復帰しようとします。

しかし、尾根道がすぐ上に見えるのですが、どこを見ても壁のような崖で、登ることができず、うっすらと残る踏み跡か獣道かわからないトラバースを進んだり、よじ登れそうなところをよじ登ったりし、やっとの思いで、登山道の尾根道に復帰することができました。登りだったからまだよかったです、これが下りだったら、滑落遭難に直結です。(HP参照)

登りでの道迷い事例。ピンクテープを信用し歩いていくと「あれっ？おかしい？」となり、進むべきか戻るべきか考えてしまう。登山道がみえている場合は、斜面の危険性にもよるがそのまま登ってしまうことが多いように思われる。そして、スリップして滑落。という事例が後を絶たない。警察の統計による「道迷いからの滑落」は、道迷いではなく、滑落に分布する。したがって、道迷いに起因する遭難事故は統計の数字よりも多いと思われる。

「あれっ？おかしい？」と思った次の行動で遭難に至るのか、道迷いで済むのか。遭難のターニングポイントといえる。判断を間違えてはいけない。